

土砂災害に関する出前授業

平成24年6月6日(水) 村山市の楯岡小学校にて5年生115人を対象にした、土砂災害に関する出前授業が行われました。

出前授業は、学習指導要領の改訂に伴い、児童に土砂災害の危険性や防止施設の役割を学んでもらおうと、県で本年度から始めた取り組みです。

授業では、土砂災害の模型を使って土石流や地すべりの仕組みを学んだり、学校の裏にある楯山に登り、実際に県が施工した防止施設を見ながら、その役割や危険性を学んでもらいました。

砂防ボランティア協会からもこの日2名の会員が先生役として、児童とともに楯山のがけ崩れ危険箇所に登り説明を行いました。

児童たちからも、知らないことがたくさん学べて良かった等の感想が多数あり、授業は無事成功しました。



土石流の模型を使って、土砂災害が起きる仕組みを勉強しました。

砂防ボランティア協会の会員から、楯山の防止施設等について、説明していただきました。



県砂防ボランティア協会の会員からコンクリート擁壁などについて説明を受ける楯岡小5年生 ー村山市・楯山



ここに被害防止の工夫

村山市の楯岡小(佐藤淳一校長)の5年生115人を対象にした、土砂災害に関する出前授業が6日、同校などで行われた。近くに楯山にも登り、がけ崩れの仕組みを学んだ。出前授業は、児童に土砂災害の危険性や防止施設の役割を学んでもらおうと、県が本年度始めた取り組みで、楯岡小が1回目選ばれた。県土整備部砂防災害対策課の職員を先生に、土砂災害の種類、土石流の仕組み、防止施設の役割などを実験形式で学んだ。

楯岡小が1回目選ばれたのは、高宮修君(10)は、いつも遊ぶ楯山だけでなく、がけ崩れの危険があったり、みんなを守るために擁壁があることが分かったと話していた。

村山・楯岡小児童 土砂災害学ぶ、県、初の出前授業

平成24年6月7日
山形新聞 掲載

土砂災害防ぐ仕組み学ぶ

村山・楯岡小で県出前授業

土砂災害警戒区域に指定されている楯山に隣接する村山市立楯岡小学校でこのほど、県の土砂災害出前授業があった。5年生115人が土砂災害の危険性や防止施設の役割を学んだ。

学習指導要領の改訂で社会科に自然災害が手厚く採り入れられたことを受けた授業で、今回が初の出前授業。県職員や県砂防ボランティア協会会員が講師を務めた。児童は土砂を防ぐ擁壁などの役割を模型を使って学んだあと、実際に山の斜面につくられたコンクリートや鉄製の擁壁を見学した。

森孝彦(10)は「身近に危険な場所があることがわかった。佐藤幸吾さん(10)は「擁壁をいかにききに自然守る工夫をいかにしてか」と話していた。県は今後も希望する小学校に講師を派遣する。

平成24年6月13日
朝日新聞 掲載